

N1 第 12 课 古典文学方丈记（课文）

『方丈記』の前半は、これらの大事件を記し、後半は方丈の庵に過ごす日々のことを綴っています。後半にも心惹かれる記述が多いのですが、彼のすごさは特に前半の大事件を記す時に発揮されています。記録文学の先駆といった面影を宿しています。

いくら大事件を経験しても、時がたつにつれて記憶が不鮮明になり、印象もぼやけてくるのが普通です。ところが、長明さんときたら、三十年以上も前に起こったことを正確に鮮明に記憶しており、それを五十七歳で執筆した『方丈記』に記しているのです。しかも、そこには、たとえば、大飢饉で餓死した人数までしっかり書き記してある。

（山口仲美『日本語の古典』岩波書店による）

《方丈记》の前半部分记述了这些大事件，后半部分讲述的是在方丈庵里生活的日子。后半部分引人入胜的记述很多，但是他的出色主要是在记载前半部分的大事件时发挥出来的。有着记录文学的先驱的风貌。

无论怎么经历大事件，随着时间的推移，一般记忆会变得不清晰，印象也会逐渐模糊。但是，长明却能准确地清晰地记住 30 多年前发生的事情，并且在 57 岁时把它们写在了《方丈记》里。而且，比方说，在那里居然记录了在大饥荒里饿死的人数。